

オオタカ識別マニュアル



環境省自然環境局

目 次

I はじめに -----	1
II オオタカ <i>Accipiter gentilis</i> の分布と亜種 -----	1
III オオタカの齢と雌雄の識別 -----	2
(i) 齢の識別 -----	2
(ii) 雌雄の識別 -----	2
IV 亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの識別 -----	8
(i) 尾羽の横斑の太さによる識別 -----	8
(ii) 自然翼長による識別 -----	9
(iii) 尾長による識別 -----	10
(iv) 色調等による識別 -----	11
V 参考文献 -----	16

I はじめに

日本に生息するオオタカの亜種 *Accipiter gentilis fujiyamae*（以下、「亜種オオタカ」という）は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により国内希少野生動植物種に指定されており、捕獲や譲渡等が禁止されている。また、日本の鳥類レッドリストで準絶滅危惧に指定されている（環境省 平成18年12月22日）。

オオタカは亜種間で外部形態が類似しているため、日本産亜種が違法捕獲され外国産亜種として取引される可能性があり、これらの監視のためには日本産亜種の識別が必要である。本マニュアルは、外部形態から日本産の亜種オオタカと、日本において最も広くペットとして飼育され、日本産亜種と外部形態が類似していると考えられる亜種チョウセンオオタカ *A. g. schvedowi*（以下、「亜種チョウセンオオタカ」という）との識別に活用することを目的として、外部形態計測等の調査結果を踏まえ作成したものである。

II オオタカ *Accipiter gentilis* の分布と亜種

オオタカは、北半球のおよそ北緯71度から20度にかけての開けた森林および林縁に広く分布する。主に留鳥であるが、北方の個体群は南方に渡って越冬する。分布の北限はユーラシアと北アメリカの森林限界、南限はユーラシアでは中国西部のチベットとヒマラヤ山脈、北アメリカではメキシコ西部である（Vaurie, 1965; Ferguson-Lees and Christie, 2001）。北方の亜種ほど淡色で大きく、南方の亜種ほど暗色で小さい傾向があり、9亜種に分けられる（Weick and Brown, 1980; Ferguson-Lees and Christie, 2001, 2005）。

亜種オオタカは、日本だけで繁殖する固有亜種で、オオタカの全9亜種の中で最も小さく、最も暗色で黒味が強い（Weick and Brown, 1980）。

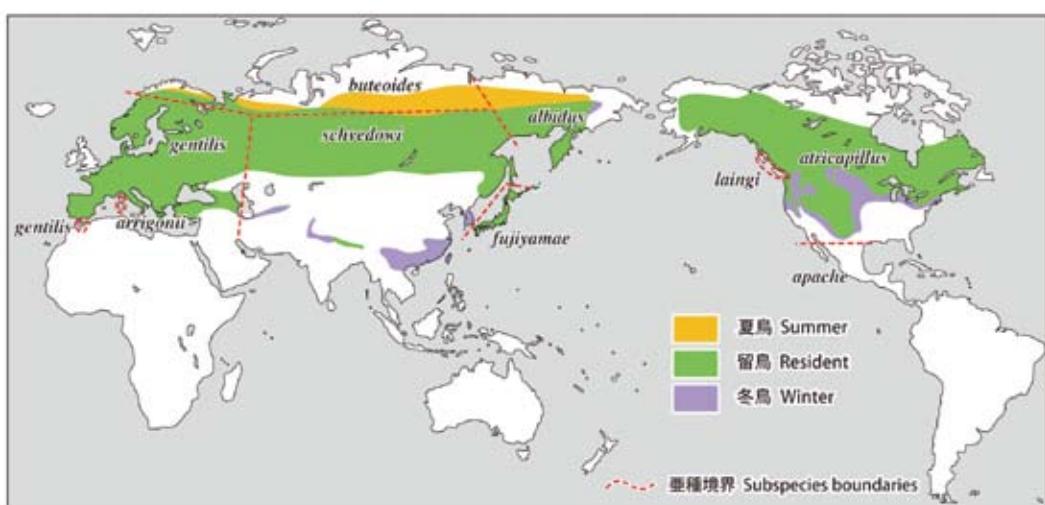


図1. オオタカ分布図 Distribution of Northern Goshawk *Accipiter gentilis*

III オオタカの齢と雌雄の識別

(i) 齢の識別

オオタカの齢は、羽衣により幼羽、第1回冬羽、成鳥羽として3種類に識別することができる。各羽衣の期間は、幼羽は孵化後約40日後から生まれた翌年の夏期の約1歳まで、第1回冬羽は約1歳から約2歳まで、成鳥羽は約2歳以後である。

オオタカの換羽は年1回だけで、幼鳥は生まれた翌年の夏期から秋期にかけて徐々に幼羽から第1回冬羽に換羽をする。幼羽は、雨覆、腰、上尾筒に淡褐色の羽縁があり、喉から胸・腹・脇・下尾筒・下雨覆に縦斑、風切と尾羽に顕著な太い横斑がある。

第1回冬羽は、次列風切と小雨覆・中雨覆・大雨覆・腰・上尾筒に褐色で淡褐色の羽縁のある幼羽が1~数枚残っており、また胸・腹・脇および下雨覆のうちのいずれかに幼羽が1枚は残っている。このように、幼羽が残っていれば、第1回冬羽の個体であることを識別できる。

第1回冬羽と第2回冬羽以後の成鳥羽の個体は類似し、下面の縦斑が横斑となり下尾筒の縦斑はなくなり、眼の後方に太い過眼線ができる。雨覆に淡褐色の羽縁はなくなり、体上面は褐色かやや青灰色がかかった褐色または青灰色となり、風切と尾羽の横斑は幼羽に比べ不明瞭となる傾向がある。また、第1回冬羽の個体の初列風切と次列風切の暗色の横斑は明瞭で、頭部と上面は褐色味が強く、胸と腹の横斑は第2回冬羽以後の成鳥より幅がやや太く褐色味が強い。虹彩の色は、幼羽の個体は淡黄色であり、第1回冬羽の虹彩の色は淡黄色または橙黄色である。第2回冬羽以後の成鳥羽の虹彩は淡黄色、黄色、橙黄色と変異があるものの、幼羽と第1回冬羽の個体よりオレンジ色を帯びる傾向がある。

(ii) 雌雄の識別

オオタカの雄は雌より小さい(P10「表2」参照)。成鳥羽の雄は雌に比べ、上面がより灰色味が強く下面の横斑がより細く黒い傾向があるが、成鳥羽の雄の中には上面が灰色味のある褐色で雌にやや類似した個体もいるので、羽色だけから雌雄を識別することは難しい。また、虹彩や幼羽及び第1回冬羽の色により雌雄を確実に識別することも困難である。



図2. 各部位の名称

亜種オオタカ (*Accipiter gentilis fujiyamae*) の齢別・雌雄別の参考写真

写真① 雄・幼羽 (Male • Juvenile)



(上面)

(下面)

幼羽の初列雨覆と大雨覆の先端には淡黄褐色の羽縁がある。幼羽の下雨覆には縦斑があり、幼羽は生後約1年後の幼羽から第1回冬羽への換羽を経て、生後約2年後の第2回冬羽への換羽の初期までは完全にはなくならない。

写真② 雌・幼羽 (Female • Juvenile)

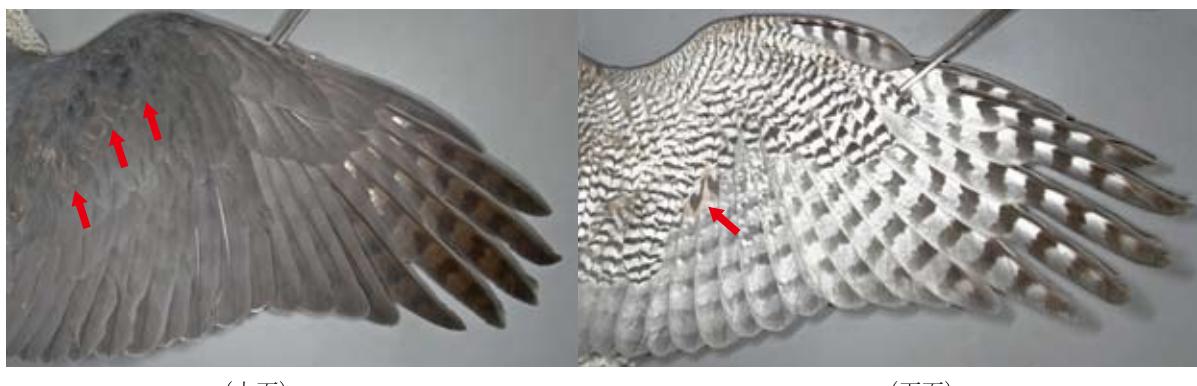


(上面)

(下面)

幼羽の雌雄は類似し、個体差が大きいので羽色だけから雌雄を識別することは困難である。

写真③ 雄・第1回冬羽 (Male • First Winter)

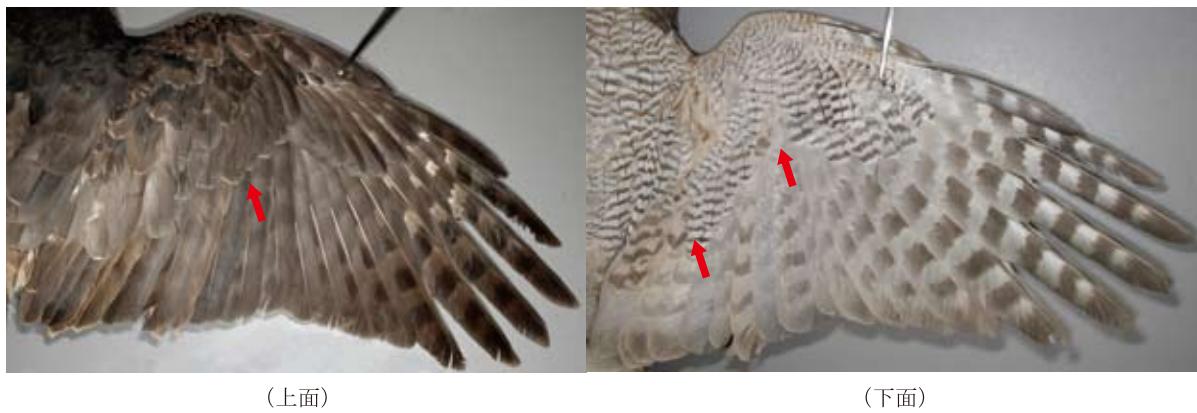


(上面)

(下面)

上面には淡褐色の羽縁のある褐色の幼羽、下面には暗褐色の縦斑のある淡褐色の幼羽が残っていることに注意。

写真④ 雌・第1回冬羽 (Female • 1st Winter)



雨覆に淡褐色の羽縁のある幼羽が残っていることに注意。下雨覆に淡褐色で暗褐色の縦斑のある幼羽が残っている。この個体では次列風切の一部にも幼羽が残っている。

写真⑤ 雄・成鳥羽 (Male • Adult)



亜種オオタカ雄の成鳥羽では、雨覆と風切の暗褐色の横斑は、雌より不明瞭である。

写真⑥ 雌・成鳥羽 (Female • Adult)



亜種オオタカの成鳥羽では雌雄とも亜種チョウセンオオタカより暗褐色の横斑は不明瞭であり、雄は雌より一層不明瞭である。

写真⑦ 雄・幼羽 (Male • Juvenile)



(上面)

(下面)

幼羽の尾の下尾筒には雌雄とも縦斑がある。雄は雌より暗色の横斑と下尾筒の縦斑が、やや不明瞭な傾向がある。

写真⑧ 雌・幼羽 (Female • Juvenile)



(上面)

(下面)

幼羽の尾の下尾筒には雌雄とも縦斑がある。雌は雄より暗色の横斑と下尾筒の縦斑が、やや明瞭な傾向がある。

写真⑨ 雄・第1回冬羽 (Male • First Winter)



(上面)

(下面)

成鳥羽より暗色の横斑が明瞭で、下尾筒に縦斑はないことに注意。

写真⑩ 雌・第1回冬羽 (Female • First Winter)



(上面)

(下面)

この個体の尾羽には、磨耗した灰色味のない褐色の幼羽がまだ多く残っている。

写真⑪ 雄・成鳥羽 (Male • Adult)



亜種オオタカの雄の成鳥羽では、尾羽は雌より灰色味が強い傾向があり、暗色の横斑は雌より不明瞭である。

写真⑫ 雌・成鳥羽 (Female • Adult)



亜種オオタカの雌の成鳥羽では、尾羽は雄より褐色味が強い傾向があり、暗色の横斑は、雄より明瞭である。

IV 亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの識別

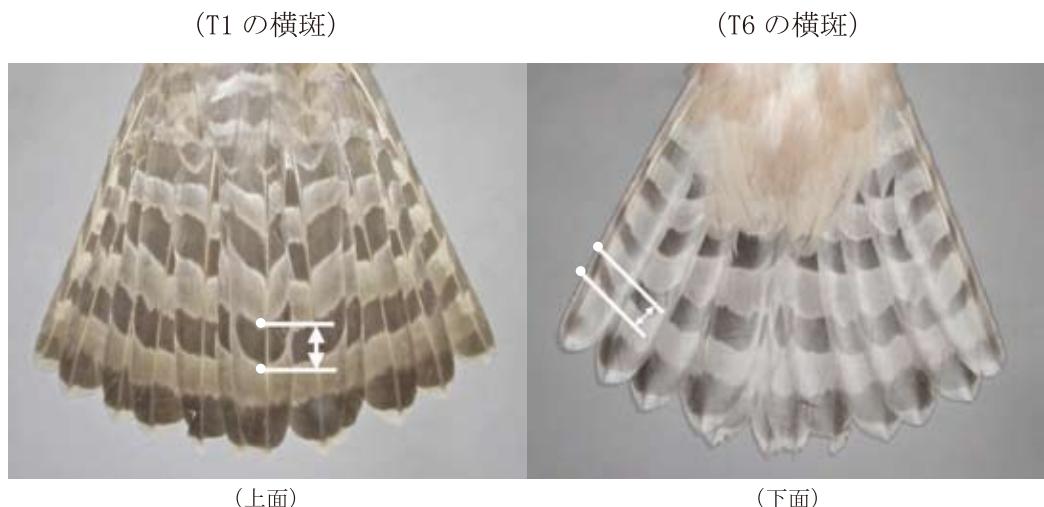
亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの識別は、以下に述べる尾羽の横斑の太さ、自然翼長、尾長、色調から総合的に判断する必要があり、専門家にその判断を仰ぐべきである。

(i) 尾羽の横斑の太さによる識別

中央尾羽 (T1) の上面の先端から 2 本目の暗色の横斑の太さを羽軸に添って計測した場合（写真⑬左）、幼羽の雌を除き、亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの間には有意差が認められる。（t 検定、成鳥羽と第 1 回冬羽・雄 : $df=6$ 、 $p<0.01$ 、成鳥羽・雌 : $df=8$ 、 $p<0.01$ 、幼羽・雄 : $df=11$ 、 $p<0.05$ 、幼羽・雌 : $df=14$ 、 $p=0.125$ ）。

また、最外尾羽 (T6) の下面の先端から 2 本目の暗色の横斑の太さを羽軸に添って計測した場合も（写真⑬右）、成長羽の雄を除き、亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの間には有意な差が認められる（t 検定、成鳥羽・雄：日本産 $df=8$ 、 $p=0.06$ 、成鳥羽・雌 : $df=7$ 、 $p<0.01$ 、幼羽・雄 : $df=11$ 、 $p<0.05$ 、幼羽・雌 : $df=14$ 、 $p < 0.01$ ）。なお、両亜種ともこの T1、T6 の横斑の太さは、消失により計測できないことがある。

写真⑬ 亜種チョウセンオオタカ 雄・幼羽 (Male・Juvenile)



尾の暗色の横斑の太さの計測部位を示す。中央尾羽の上面、および最外尾羽の先端から 2 本目の暗色の横斑の幅を羽軸に沿って計測する。この暗色の横斑の計測値には、幼羽の雌の個体を除いて亜種間に有意な差が認められる。

表 1. 亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの尾羽の横斑の太さ *

亜種名		オオタカ <i>A. g. fujiyamae</i>				チョウセンオオタカ <i>A. g. schvedowi</i>			
性別 齢 **		雄 成鳥羽	雌 成鳥羽	雄 幼羽	雌 幼羽	雄 成鳥羽	雌 成鳥羽	雄 幼羽	雌 幼羽
T1	平均値	15.3	21.8	22.7	23.8	23.3	27.5	25.0	25.8
	(最小値-最大値)	(12-17)	(17-24)	(20-27)	(21-27)	(22-25)	(25-31)	(24-26)	(22-29)
T6	平均値	10.1	10.7	12.5	12.4	14.3	15.2	16.2	16.8
	(最小値-最大値)	(7-12)	(8-12)	(10-17)	(10-16)	(12-17)	(13-19)	(14-20)	(14-22)

(単位 : mm)

* 計測値は標本と生体をあわせたもの

** 成鳥羽には第1回冬羽または第2回冬羽を含む

(ii) 自然翼長による識別

自然翼長については、幼羽の雌を除き、亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの間には有意な差が認められる (t 検定、成鳥羽・雄 : df = 17, p < 0.01、成鳥羽・雌 : df = 20, p < 0.05、幼羽・雄 : df = 16, p < 0.01、幼羽・雌 : df = 16, p = 0.906)。両亜種の雌雄とも自然翼長の計測値には重複があるが、幼羽、第1回冬羽、成鳥羽とも雄では、自然翼長が 302mm 以上あれば、ほとんどが亜種チョウセンオオタカである。雌では自然翼長が 340mm 以上あれば、ほとんどが亜種オオタカである (P10 「表 2」 参照)。



自然翼長の計測方法：翼角から最長初列風切先端までを直線で計測する。

(iii) 尾長による識別

尾長については、幼羽の雌を除き、亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの間には有意な差が認められる（t検定、成鳥羽・雄：df=18、p<0.01、成鳥羽・雌：df=17、p<0.05、幼羽・雄：df=17、p<0.01、幼羽・雌：df=13、p=0.108）。両亜種の尾長も重複しているが、尾長が雄では228mm以上、雌では249mm以上あれば、ほとんどが亜種チョウセンオオタカである（「表2」参照）。



尾長の計測方法：中央尾羽の生え際から先端までを直線で計測する。

表2. 亜種オオタカとチョウセンオオタカの自然翼長と尾長*

亜種名		オオタカ <i>A. g. fujiyamae</i>				チョウセンオオタカ <i>A. g. schvedowi</i>			
性別 齢 **		雄 成鳥羽	雌 成鳥羽	雄 幼羽	雌 幼羽	雄 成鳥羽	雌 成鳥羽	雄 幼羽	雌 幼羽
自然 翼 長	平均値 (最小値- 最大値)	287.6 (274.5-303)	329.6 (313-343)	290.4 (269.5-302.5)	327.1 (314-344)	309.3 (301-325)	340.8 (328-365)	308.2 (296-318)	327.9 (310-354)
尾 長	平均値 (最小値- 最大値)	197.8 (189.5-212.5)	233.3 (220-249.5)	210.4 (187-228)	235.1 (204-248)	228.4 (214-249.5)	244.5 (230-256)	232.2 (222-245)	245.7 (233-261.5)

（単位：mm）

* 計測値は標本に基づく

** 成鳥羽には第1回冬羽および第2回冬羽を含む

(iv) 色調等による識別

亜種チョウセンオオタカは、雌雄の幼羽・第1回冬羽・成鳥羽とも全体に亜種オオタカより淡色である。一方、胸と腹の暗色の軸斑または横斑の色は、幼羽・第1回冬羽・成鳥羽とも亜種オオタカより亜種チョウセンオオタカの方が濃く、幼羽の個体を除き太い傾向がある。

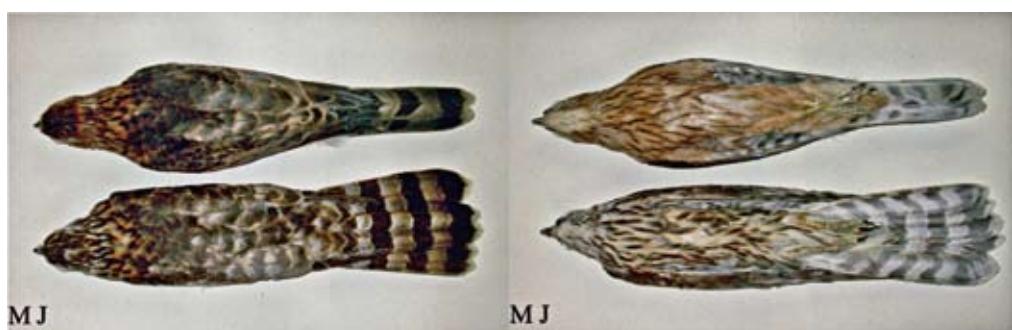
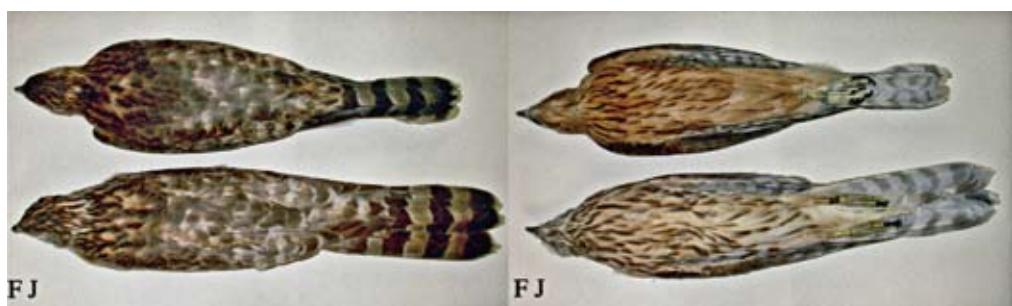
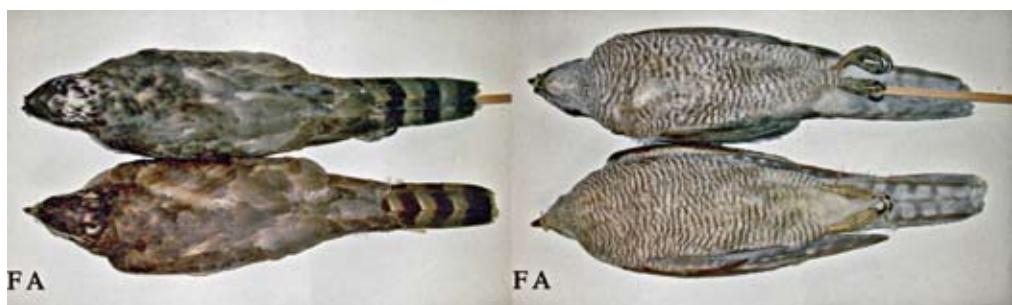
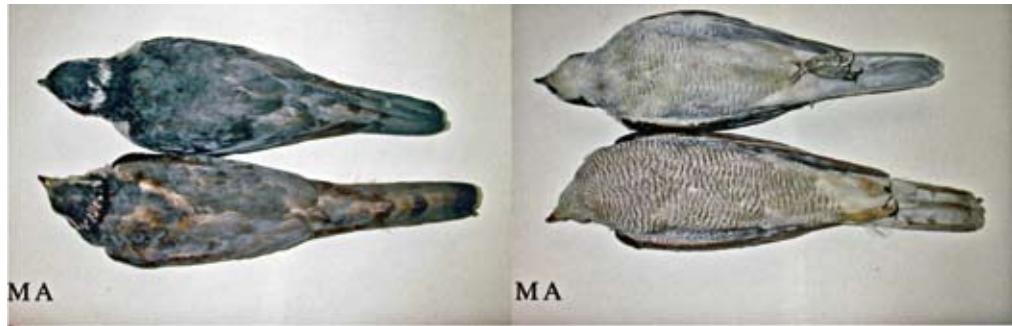
また、亜種オオタカの雄・成鳥羽の頭上の色は黒色に近いが、亜種チョウセンオオタカでは黒灰褐色である。さらに中央尾羽(T1)の上面と最外尾羽(T6)、および次列風切の下面の暗色の横斑の色は、亜種チョウセンオオタカの方が濃い。亜種オオタカの成鳥羽では雌雄とも尾羽の横斑は不明瞭な個体が多く、横斑がほとんどない個体もあるが、亜種チョウセンオオタカでは尾羽に横斑がほとんどない個体はまれである。幼羽の個体も成長羽と同様に尾羽と次列風切の横斑が亜種チョウセンオオタカの方が濃く明瞭であるが、両亜種とも個体差が大きく成鳥羽と第1回冬羽の個体に比べ、幼羽の両亜種の識別は難しい。

初列風切下面の暗色の横斑の色も尾羽と同様に亜種オオタカでは亜種チョウセンオオタカより淡い傾向があり、亜種オオタカの成鳥羽では初列風切、次列風切および尾羽の横斑が不明瞭である。尾羽の横斑の太さは、亜種日本産オオタカより亜種チョウセンオオタカでより太い。幼羽では、亜種チョウセンオオタカの初列風切、次列風切の横斑は亜種オオタカより濃いが、細いことが多い。

亜種オオタカと亜種チョウセンオオタカの比較の参考写真

写真⑭ M: 雄, F: 雌, A: 成鳥羽, J: 幼羽

各写真とも上段: 亜種オオタカ (*A. g. fujiyamae*), 下段: 亜種チョウセンオオタカ (*A. g. schvedowi*)



(上面)

(下面)

写真⑯ 雌・幼羽 (Female • Juvenile)



(亜種オオタカ)

(亜種チョウセンオオタカ)

亜種オオタカは幼羽のうちから、亜種チョウセンオオタカの幼羽より全体に暗色である。

写真⑰ 雄・成鳥羽 (Male • Adult)



(亜種オオタカ)

(亜種チョウセンオオタカ)

成鳥羽では亜種オオタカの頭上、頬、背は黒色味が強いが、亜種チョウセンオオタカの頭上、頬、背は、灰色味が強い傾向がある。しかし、亜種チョウセンオオタカの個体によっては、この個体より雌雄とも黒色味が強い個体もあり、羽色だけから両亜種を識別するのは難しいこともある。

亜種チョウセンオオタカ (*Accipiter gentilis schvedowi*) の齢別・雌雄別の参考写真

写真⑯ 雄・幼羽 (Male • Juvenile)



亜種オオタカの幼羽の個体より雌雄とも尾羽の暗色の横斑は、より明瞭である。

写真⑰ 雌・成鳥羽 (Female • Adult)



(上面) (下面)

亜種チョウセンオオタカの尾羽の暗色の横斑は、雌雄とも亜種オオタカより明瞭であり、亜種オオタカと同様に雄より雌の方がより明瞭である。

写真⑯ 雄・幼羽 (Male・Juvenile)



(上面)

(下面)

幼羽の亜種チョウセンオオタカの初列風切と次列風切の下面の暗色の横斑は、雌雄とも亜種オオタカより濃く細いことが多い。

写真⑰ 雄・成鳥羽 (Male・Adult)



(上面)

(下面)

亜種オオタカより翼上面は淡色で灰色味が強い傾向がある。

写真㉑ 雌・成鳥羽 (Female・Adult)



(上面)

(下面)

亜種オオタカより翼上面は淡色で灰色味が強い傾向があり、翼下面の暗色の横斑は、より明瞭である。亜種オオタカの成鳥羽では雌雄とも亜種チョウセンオオタカより暗褐色の横斑は不明瞭であり、雄は雌より一層不明瞭である。

V 参考文献

- Dickinson, E. C. (Editor) 2003. *The Howard and Moore Complete Checklist of the World*. 3rd Edition. Christopher Helm, London.
- Ferguson-Lees, J. and Christie, D. A. 2001. *Raptors of the World*. Christopher Helm, London.
- _____. 2005. *Raptors of the World. A Field Guide*. Christopher Helm, London.
- 日本鳥類目録編集委員会 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 茂田良光・内田 博・百瀬 浩2006. 日本産オオタカ *Accipiter gentilis fujiyamae* の測定値と識別. 山階鳥学誌38(1): 22-29.
- Swann, H. K. and E. Hartert 1923. [Description of *Accipiter gentilis fujiyamae*, subsp. nov.] *Bulletin of British Ornithologists' Club* 43: 170-171.
- Vaurie, C. 1965. *The Birds of the Palearctic Fauna. Non-Passeriformes*. H. F. & G. Witherby, London.
- Weick, F. and Brown, L. H. 1980. *Birds of Prey of the World*. Collins, London.
- Wheeler, B. K. 2003. *Raptors of Western North America*. Princeton University Press, Princeton, New Jersey.
- 山階芳麿 1941. 日本の鳥類と基生態 第2巻. 岩波書店,

表紙: 亜種オオタカ *Accipiter gentilis fujiyamae* 雌・成鳥羽

裏表紙: 亜種チョウセンオオタカ *Accipiter gentilis schvedowi* 雌・幼羽

オオタカ識別マニュアル

発行

環境省自然環境局野生生物課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2

TEL:03-5521-8282 HP:<http://www.env.go.jp/nature>

平成20年3月31日

編集・制作

財団法人 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115

